



TITLE:

追憶文財部先生を憶ふ

AUTHOR(S):

石川, 興二

---

CITATION:

石川, 興二. 追憶文財部先生を憶ふ. 經濟論叢 1940, 51(2): 254-256

ISSUE DATE:

1940-08

URL:

<https://doi.org/10.14989/131413>

RIGHT:

會學濟經學大國帝都京

# 叢論濟經

號二第卷一十五第

月八年五十和昭

哀辭

故財部教授遺影署名及原稿

## 論叢

支那の農家負債と農地の抵押……………經濟學博士 八木芳之助  
水産資源の保全について……………經濟學博士 蜷川虎三

## 時論

東亞新秩序建設と新國民政府<sup>の發展性</sup>……………文學博士 矢野仁一

## 研究

民國初期の兌換券……………經濟學士 徳永清行  
自由貿易主義の吟味……………經濟學士 岡倉伯士

## 記事

財部教授逝く

故財部教授年譜及著書論文目錄

## 追憶文

神戸正雄 本庄榮治郎 蜷川虎三  
木村喜一郎 吳文炳 宗藤圭三  
青盛和雄 松岡孝兒 石川興二  
黒正巖 藤本幸太郎 谷口吉彦  
岡崎文規

## 附錄

## 彙報

外國雜誌論題

## 財部先生を憶ふ

石川 興二

財部先生より統計學の講義を聞いた時、その用語と文體の異例な爲めにノートが取り難くして困つたものである。「襷襟より蓋棺に至るまで吾人は統計の護送

を受けざるはなし」と云ふが如きは今以て忘れ難い句である。

どうしても解らないものについては次の時間先生が教壇に立つて講義をはじめられる前に質問をすることもあつた。すると先生は懇に教へて下さつた。そうする中に先生の講義の滋味がわかり熱心に理解に努めた。そして尙解り難い時には一戸、藤井、若森等の友人と共に先生の御宅へ質問に出かけ色々御話を承はつた。先生の難文に對して我々の感想を述べたら、日本文は冗長だから簡潔にしたいのだと云はれた。なる程、読み難く思ふた先生の文章は非常にこつたものである。こうして私達は先生より學問研究の興味を教へられることが少なくなかつた。大學院へ入つた後は一層先生より教を受けることが多くなつた。先生の獨創性はその御話の中に屢々極めて有益な研究上の示唆を與へられ、また博覽強記な先生は研究せんとするところに對して適切な書物を屢々教へて下さつた。先生が書物を愛せられることは一通ではなかつた。絶へず珍

貴な書物の蒐集に努められ、會心のものはよく見せて下さつた。また御一緒に町を歩いて居る時、裏通の本屋に入つて珍本を漁られたことも懐しい思ひ出の一つである。

一見剽逸に見へる先生の根本性格は、感受性に富んだ繊細な情性にあつた。そこに先生の學問上に於ける秀れた獨創力もありまた人に對する細かな心使ひもあつた。先生は我々親しく接する弟子に注意をせられるに決して直言されることなく極めて婉曲に云はれた。

先生の御性格を知る我々にはそれが一層深い効果を與へた。私の洋行中不幸奥様がなくなられた。その後御不自由な中で獨身で通されたのも御子様方に對する父性愛の強さにあつたと思ふ。然もかゝる御性格の先生のこうした御生活はこと更いたしたいものに感ぜられた。そこに先生の御心身の無理があり御健康を損なはれることになつたと思ふ。先生御危篤との急報に接して走せ參じた時には、既に意識を失ふて居られた。本來極めて强健な體質を有せられた先生が、還暦の直

追 憶 文

前に忽然として逝かれたことは全く残念である。この地味なそして内面的に豊かな御性格の先生に再び御會ひ出来ないことを思ふ時、限らない寂しさを感じるのである。